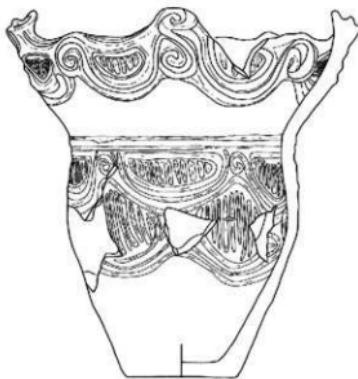


大月市埋蔵文化財発掘調査報告書

てらばら
寺原1遺跡

—宅地造成に伴う発掘調査報告書—



2019年3月
大月市教育委員会
大月市遺跡調査会

大月市埋蔵文化財発掘調査報告書

てら ばら い せき
寺 原 1 遺 跡

—宅地造成に伴う発掘調査報告書—

2019年3月
大月市教育委員会
大月市遺跡調査会

あいさつ

大月市七保町下和田地区は、大月市内でも有数の遺跡密集地域です。百蔵山の大規模な土砂崩れによって生まれた崖錐地形は、南向きの緩やかな斜面として、人びとに古来より生活の適地を提供してきました。

寺原1遺跡の今回実施した発掘調査では、縄文時代の住居跡が3軒、奈良時代の住居跡が3軒確認されました。このことから、調査地点周辺には住居跡がひろがる集落遺跡が存在すると考えられます。こうした調査の積み重ねによって、郷土の歴史が復元されていき、魅力ある郷土の再発見につながるものと考えます。

寺原1遺跡の発掘調査報告書である本書が、本地域での歴史研究の発展のみならず、今後計画される開発事業への対応等、幅広く活用されることを期待します。

おわりに、調査の実施にあたりご協力を頂きました関係機関各位に深く感謝申し上げます。

平成31年3月

大月市教育委員会
教育長 小泉克行

例　言

1. 本書は山梨県大月市七保町下和田字寺原地内に所在する寺原1遺跡の発掘調査報告書である。書籍名は『寺原1遺跡』であり、副題は「宅地造成伴う発掘調査報告書」である。
2. 本遺跡は、調査当時に周知の埋蔵文化財包蔵地「寺原2遺跡」として認識されていたが、整理作業を行う過程で、周知の埋蔵文化財包蔵地「寺原1遺跡」であることが確認された。このため、本書は寺原1遺跡の発掘調査報告書であるが、遺物注記や一連の書類には「寺原2遺跡」として記載されている。
3. 調査は、有限会社古見工務店による宅地造成に伴うものであり、大月市遺跡調査会が委託を受け実施した。
4. 発掘調査は杉本正文（大月市教育委員会社会教育課）が担当し、整理作業、報告書の執筆は杉本正文と稻垣自由（大月市教育委員会社会教育課）が、編集は稻垣自由が担当した。
5. 発掘調査は、平成4年12月7日から平成5年1月31日の期間で行い、出土遺物および現場図面等の整理作業、報告書作成作業を平成24年2月21日から平成24年3月15日、平成24年5月22日から平成24年7月20日の期間で行い、執筆、編集作業を平成31年1月4日から平成31年2月28日にかけて行った。
6. 本書刊行までの作業は、大月市郷土資料館の研修室を整理室として使用し行った。また、出土遺物および調査に関わる写真・記録類は大月市教育委員会が保管している。
7. 本書刊行にあたり、公益財団法人 山梨文化財研究所所属の櫛原功一氏、平野修氏に助言を戴いた。記して感謝申し上げる次第である。

凡　例

1. 本書中に記載されている遺構名は、本調査時の名称を用いている。掲載されている図版のスケール、方位、スクリーントーンの用例は必要に応じて図中に示した。
2. 掲載した図面の縮尺は、原則として以下の通りであるが必要に応じて縮尺を変化させた場合には下記以外の縮尺である旨を示すため異なる尺度のスケールを図示した。
グリッド設定図：1/400　遺構平面図：1/60　カマド平面図：1/30　遺物：1/3
3. 遺構図に示した方位（N）および全体図に示した方位（N）は磁北である。

目 次

例言

凡例

目次

第1章 経過

第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 整理作業等の経過	1

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境と歴史的環境	2
-----------------	---

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法	4
第2節 層序	4
第3節 遺構および出土遺物	6

第4章 総括	8
--------	---

挿図目次

図1 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
図2 寺原地内出土土器	4
図3 調査対象区域内の試掘坑設定状況と調査区全体図	5
図4 1号住居	9
図5 2号住居	10
図6 3号住居	11
図7 4号住居	12
図8 6号住居	13
図9 7号住居	13
図10 配石遺構	14
図11 出土遺物①(1~2号住居)	15
図12 出土遺物②(2号住居)	16
図13 出土遺物③(2号住居)	17

図 14 出土遺物④（2～3号住居）	18
図 15 出土遺物⑤（3～4号住居）	19
図 16 出土遺物⑥（4～6号住居）	20
図 17 出土遺物⑦（6号住居）	21
図 18 出土遺物⑧（7号住居）	22
図 19 出土遺物⑨（配石遺構）	23
図 20 出土遺物⑩（遺構外遺物）	24
表 1 出土遺物観察表 繩文土器・石器	25
表 2 出土遺物観察表 土師器・須恵器	27
 写真図版	
写真図版 1 調査区全景	30
写真図版 2 検出遺構	31
写真図版 3 検出遺構	32
写真図版 4 出土遺物	33
写真図版 5 出土遺物	34
写真図版 6 出土遺物	35
抄録	36

第1章 経過

第1節 調査にいたる経緯

寺原1遺跡の発掘調査は、大月市七保町下和田地内に計画された宅地造成事業に伴い実施された。

計画地およびその周辺は、縄文時代遺跡の密集する地域であり、計画地は、「寺原1遺跡」の名称で、縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として遺跡地図等で周知されている。縄文土器の濃密な散布が確認されており、これまで耕作によりたびたび土器等が発見されている。こうしたことから、試掘調査によつて本調査の範囲を決定することなく試掘調査と本調査は同時に行う方法を採用し、対象地域内（対象面積 1,666m²）に全 72箇所の試掘坑を設定して、遺構が確認された試掘坑のみを拡張し調査区とした。

調査については、有限会社古見工務店と大月市教育委員会、大月市遺跡調査会で三者協議を行い、大月市遺跡調査会が受託して調査を実施することが決定した。平成4年12月5日に契約が締結され、調査期間は平成4年12月7日～平成5年1月31日までと定まった。調査は、大月市遺跡調査会が大月市教育委員会の作成した仕様書に基づき実施され、必要に応じて有限会社古見工務店、大月市教育委員会との協議・打ち合わせが行われた。

届出等の書類手続きについては、文化財保護法57条の2第1項に基づく届出を有限会社古見工務店が大月市教育委員会教育長、山梨県教育委員会教育長経由で文化庁長官宛に平成4年6月18日付で提出、文化財保護法57条第1項に基づく届出を山梨県教育委員会教育長経由で文化庁長官宛に平成4年11月25日付けで提出し、翌月の12月7日より調査に着手した。

第2節 発掘調査の経過

調査は平成4年12月7日から平成5年1月31日までの約2ヶ月間実施した。調査にあたっては遺構の確認された試掘坑を順次拡張し、調査区としながら調査を行った。平成4年12月7日より器材の搬入、草刈等の調査準備を開始し、同年12月9日から現地にて調査に着手した。試掘坑は人力にて掘削を行い、平成5年1月4日より試掘坑の拡張を開始し、本調査に着手した。調査および成果についての詳細は第3章に記す。

発掘調査に従事した作業員は下記のとおりである。

【発掘調査作業員】（敬称略・五十音順）

石井嘉俊 落合りつ子 後藤一男 西室宗一 輛野信慶 増田一作 村上喜美子 山口幸子
和田豊彦 和田真治

第3節 整理作業等の経過

整理作業については、平成5年2月1日～平成5年5月31日までの期間において実施する予定であったが、受託業務の重複を原因として作業着手が遅滯し、平成4年2月21日から平成4年3月15日までの期間を基礎的整理作業として、出土遺物の洗浄、注記、接合、現場にて作成した遺構図面

の整理を実施、平成 24 年 5 月 22 日から平成 24 年 7 月 20 日までを本格的整理作業として、実測図の作成、遺物・遺構図面のトレース作業、遺物写真の撮影を行った。作成した図版類はスキャナーにてパソコンに取り込み、レイアウト・編集を行った。平成 31 年 2 月 28 日に編集作業が終了し、同年 3 月 12 日に入稿、同年 3 月 31 日に刊行した。なお、基礎的整理作業、本格的整理作業ともに大月市郷土資料館内の研修室を整理室として使用して行った。

整理作業に従事した作業員は下記のとおりである。

【整理作業員】（敬称略・五十音順）

井上利恵 坂本康次郎 中山京子 西堀紀充代

第 2 章 遺跡の位置と環境

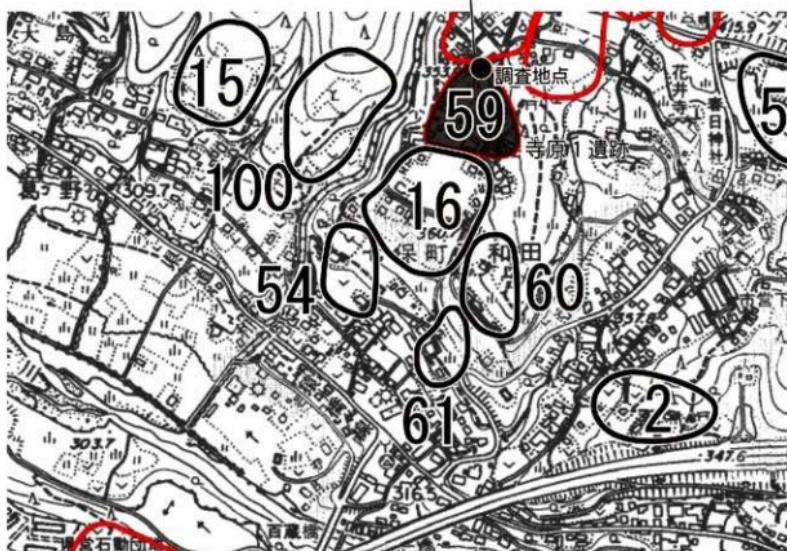
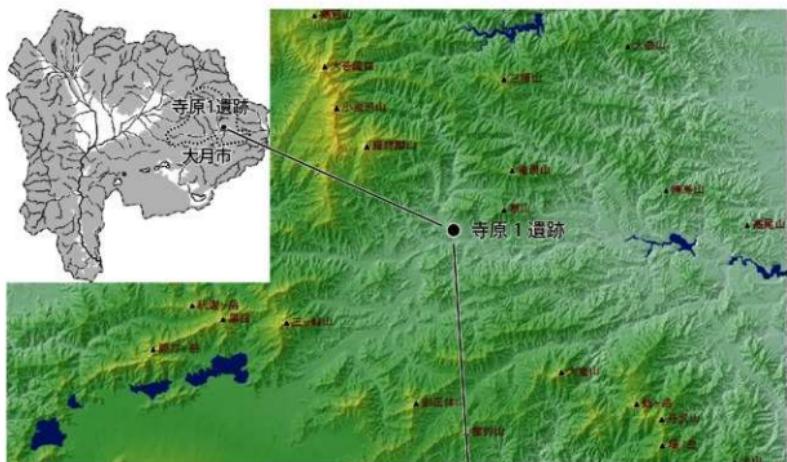
第 1 節 地理的環境と歴史的環境

寺原 1 遺跡は、山梨県大月市七保町下和田字寺原地内に所在する。大月市は山梨県でも東部の地域であり、県庁所在地である甲府市より東へ約 56km の距離にある。山梨県は、御坂山地、大菩薩嶺によつて東側の郡内地方と西側の国中地方に分けられており、大月市は郡内地方にあたる。江戸時代には甲州道中が市内の東西を横断し、参勤交代のほかにも江戸方面への物資搬出や旅行者などによって人々の往来が活発であったといことが残された記録等から読み取れる。現在でも市内には国道 20 号をはじめ、中央高速自動車道、JR 中央線、富士急行線が通過し、交通の要所として栄えた往年の姿を留めている。

寺原 1 遺跡の所在する七保町下和田地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が寺原 1 遺跡を含めて 13箇所あり、市内でも有数の遺跡の密集地帯である。ほとんどが散布地として確認されているのみであり、遺跡の性格等は明らかになっていないが、縄文土器を中心的に、弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代の土器片散布が確認されている。また、字寺原地内では耕作時に縄文時代中期後半の埋甕が発見されており、大月市教育委員会へ寄贈されている（図 2）。

寺原 1 遺跡は、百蔵山南麓の緩斜面地、標高約 380m の地点に位置する。南には黒岳（1,987 m）を水源とする葛野川が、西には堂の沢が流れている。百蔵山南麓には東西方向に藤野木一愛川構造線が存在しており、遺跡が立地する緩斜面地は、藤野木一愛川構造線を境として北側の山地の隆起によつて発生した岩石の崩落や地滑りによって形成されている。

図 1 に寺原 1 遺跡の位置及び周辺遺跡の分布図を示した（番号・位置は大月市遺跡分布図に準拠）。



2 : お弥かけ遺跡（縄文） 15 : 大境遺跡（縄文） 16 : 下畠遺跡（縄文）

54 : 和田原遺跡（縄文・古墳） 59 : 寺原1遺跡（縄文・奈良） 60 : 八幡2遺跡（縄文）

61 : 八幡1遺跡（縄文） 100 : 花輪遺跡（縄文・弥生・古墳）

図 1 遺跡の位置と周辺の遺跡

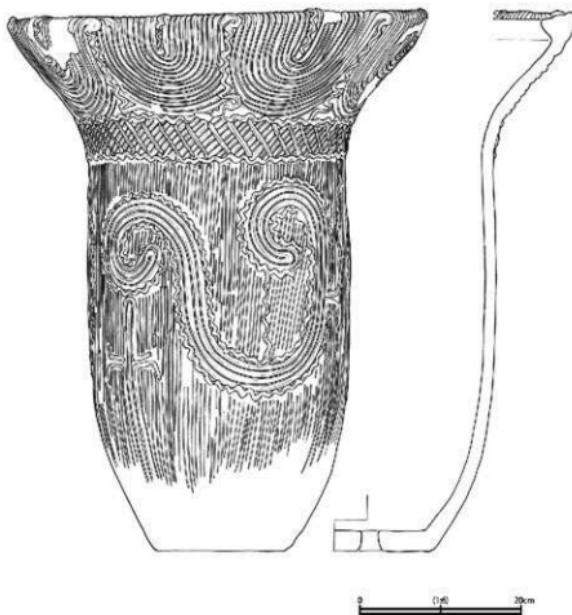


図2 寺原地内出土土器

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査は、対象地内に $2\text{m} \times 2\text{m}$ の試掘坑を全 72 箇所設定して掘り下げを行い、遺構が確認された試掘坑を拡張し調査区とした。試掘坑および試掘坑拡張の掘削は人力にて行った。掘削は遺構確認面まで掘り下げた後、ジョレンにて精査し、竪穴などの掘り込みや配石といった遺構のプランを確認した後に掘り下げ、遺構の実測、遺物の取り上げを行った。

出土遺物は遺構ごとに分けて取り上げた。遺構は完掘後、遺構平面図・エレベーション図を作成した。なお、遺構平面図は平板を使用して作成した。記録写真は一眼レフカメラ（リバーサル・白黒）を用いて適時撮影を行った。

第2節 層序

基本層序は設定していないが、遺構確認面までの堆積状況は、調査区西側の堆積が浅く、東側の堆

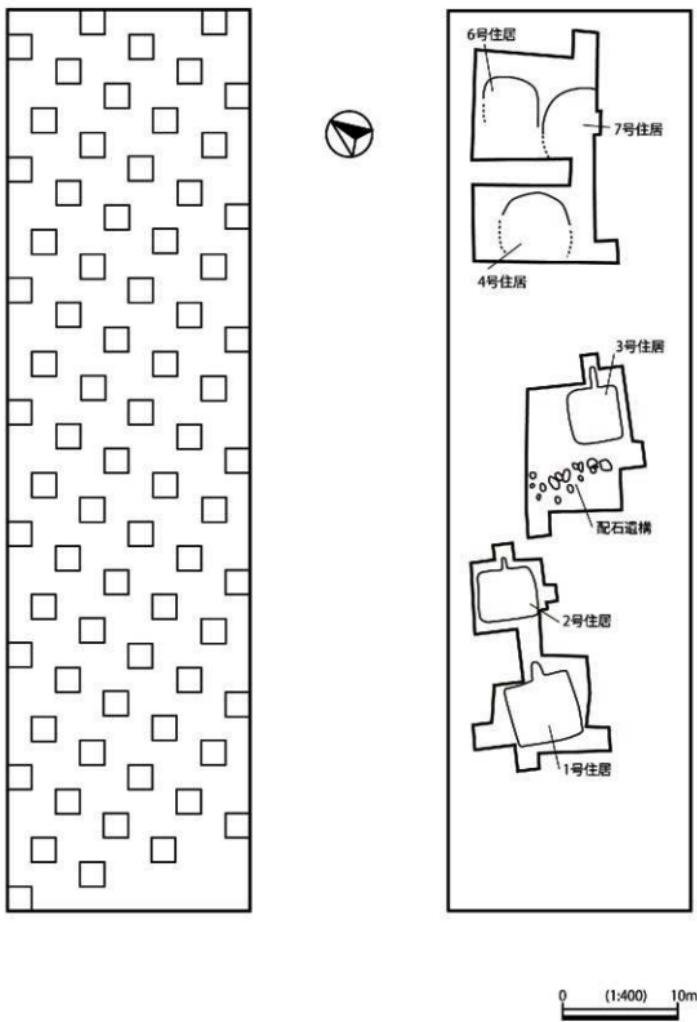


図3 調査対象区域内の試掘坑設定状況と調査区全体図

積がやや深い状況である。遺構は基盤層である黄褐色土まで掘り下げて確認した。調査区西側では、表土である耕作土一黒色土一基盤層である黄褐色土と堆積しているのに対し、調査区東側では、表土耕作土一黒色土一暗褐色土一基盤層黄褐色土という堆積状況が確認された。遺構は基盤層黄褐色土まで掘り下げた時点で確認したが、その上層からの掘り込みを想定して、ジョレン、移植ゴテにて精査を行ったが確認には至らなかった。

第3節 遺構および出土遺物

検出された遺構は竪穴住居6軒、配石遺構1基である。

遺構確認時には1号住居から8号住居までの計8軒の竪穴住居が確認されていたが、調査の進展により、5号住居、8号住居としたものには明確な掘り込み、炉、カマド等の施設も確認することができなかつたため、調査終了後に欠番とした。よって竪穴住居は1号住居、2号住居、3号住居、4号住居、6号住居、7号住居の計6軒である。以下に遺構ごとの詳細について記す。なお時期比定については、『山梨県史』資料編2を参考にし、縄文時代については今福利恵と三田村美彦の土器編年を、奈良・平安時代については山下孝司と瀬田正明の土器編年を参考とした（『山梨県史』資料編2 原始・古代2 1999年）。

1号住居

時期：7世紀末～8世紀初頭（県史編年Ⅰ期）

規模：長軸 586cm × 短軸 584cm

形状：方形、図版図4

遺物：図版図11 1～2

所見：調査区の南西端に位置する。カマドは北東に位置し、配置から柱穴と考えられるPitが4基検出でき、西壁付近にもPitを1基、本遺構に伴うかは判別できないが、土坑を1基確認した。出土遺物のうち図化できた遺物は2点である。残存率の高い1の外面・内面調整はナデ仕上げによるものである。

2号住居

時期：7世紀末～8世紀初頭（県史編年Ⅰ期）

規模：長軸 490cm × 短軸 391cm

形状：方形、図版図5

遺物：図版図11～図14 3～22

所見：1号住居の北側に位置し、カマドは北東に位置する。残存状態が非常に良好であり、カマドに付随する煙道も検出した。そのほか配置から柱穴と考えられるPitが4基検出した。出土した遺物は、甕形土器、环形土器、須恵器、石製紡錘車である。そのほか、覆土中より堀之内2式期の縄文土器や打製石斧が出土している。

3号住居

時期：7世紀末～8世紀初頭（県史編年Ⅰ期）

規模：長軸 438cm × 短軸 437cm

形状：方形、図版図 6

遺物：図版図 14～図 15 23～38

所見：2号住居の北東に位置し、1号、2号住居と同様にカマドは北東に位置する。Pit は 3 基確認され、西隅で確認することはできなかったが、いずれも竪穴内の隅角に位置している。カマドの残存状況は比較的良好で、煙道部も検出することできた。出土した遺物は甕形土器、壺形土器である。甕形土器はいずれも外面・内面調整はナデ仕上げによるものである。そのほか、覆土中より堀之内 2 式期を主体とした縄文土器片が出土している。

4号住居

時期：曾利Ⅲ式期

規模：搅乱により不明

形状：多角形か、図版図 7

遺物：図版図 15～図 16 39～51

所見：搅乱により残存状況が悪く遺構全体を確認することができなかった。平面形は円形というよりも、やや角張る形状から多角形に近いと思われるが、残存状態が悪く、確認には至らなかった。出土遺物は 39～42 が床面より出土しているため、本遺構に伴うものと考えられる。そのほか、覆土中より堀之内 2 式期を主体とした土器片が出土している。

6号住居

時期：井戸尻 2 式期

規模：搅乱により不明

形状：隅丸方形か、図版図 8

遺物：図版図 16～図 17 52～67

所見：西側が搅乱によって失われているため、全体を確認することができなかったが、残存している形状から、隅丸方形を呈しているものと思われる。炉は石畳炉で、中央より北東に寄る。また、炉の西側には集石遺構も存在する。Pit は 9 基確認した。出土遺物は、52 が屈折底をもつもので、井戸尻式 2 段階に時期比定できるものと思われる。そのほか覆土中より、堀之内式期の土器片も出土している。

7号住居

時期：堀之内 2 式期

規模：搅乱により不明

形状：円形敷石か、図版図 9

遺物：図版図 18 68～82

所見：敷石住居であるが、搅乱により南側の大部分を失っているため、残存状況は極めて悪く、全体を確認することはできなかった。一部ではあるが敷石には、焼けたものも確認できたため、図中にスクリーンにて示した。出土遺物は、堀之内 2 式の土器片のほか、磨製石斧、磨石が出土している。

配石遺構

時期：堀之内 2 式期

形状：列状に並ぶ配石、図版図 10

遺物：図版図 19 83～93

所見：3号住居の南東部に位置し、長径 20cm～70cm の礫を人為的に配置したと思われる遺構である。750cm×330cm の範囲で配置されている。遺構周辺より出土した遺物は、堀之内 2 式期の土器片と石棒である。

第4章 総括

寺原 1 遺跡の調査では、縄文時代の竪穴住居 3 軒、奈良時代の竪穴住居 3 軒が確認され、縄文時代と奈良時代の集落跡ということが明らかになった。縄文時代の竪穴住居は、井戸尻 2 式期、曾利Ⅲ式期、堀之内 2 式期といずれも時期が異なっており、中期中葉～後期前葉にかけての集落が周囲に拡がる可能性を示している。配石遺構は、配石の周辺に配石とほぼ同じレベルから堀之内 2 式期の土器が確認されているため、同時期の集落内における祭祀施設として捉えることができ、集落内における居住施設と祭祀施設の位置関係についての一端を把握することができた。

奈良時代の竪穴住居は 3 軒確認されており、いずれも竪穴の主軸がコンターラインに直交し、竪穴北東部にカマドが位置しているという構造上の共通性を持っている。時期については、出土遺物の主体がナデ整形甕であり、体部下半に稜をもつ壺が出土していることを根拠として県史編年 I 期に相当する 7 世紀末～8 世紀初頭に位置づけた。

今回の調査によって、寺原 1 遺跡には縄文時代中期中葉～後期前葉と奈良時代の集落が存在していたことが明らかになり、調査地点が寺原 1 遺跡と寺原 2 遺跡（縄文・弥生・古墳・平安）の接する地点であるため、両遺跡は一つの複合遺跡である可能性が高いということが分かった。寺原 2 遺跡以外にも隣接する遺跡として、下富遺跡（縄文）、西梨木戸遺跡（縄文・古墳）があり、隣接する遺跡を含めた一帯の土地利用、当時の人々の暮らしについて検討していくために今回の調査成果は貴重なものとなった。

これらの成果をもとにして、調査区周辺地域の開発行為への対応、出土遺物・遺構写真等を用いた教育普及活動の展開などを実施していくことがこれから課題であるといえる。

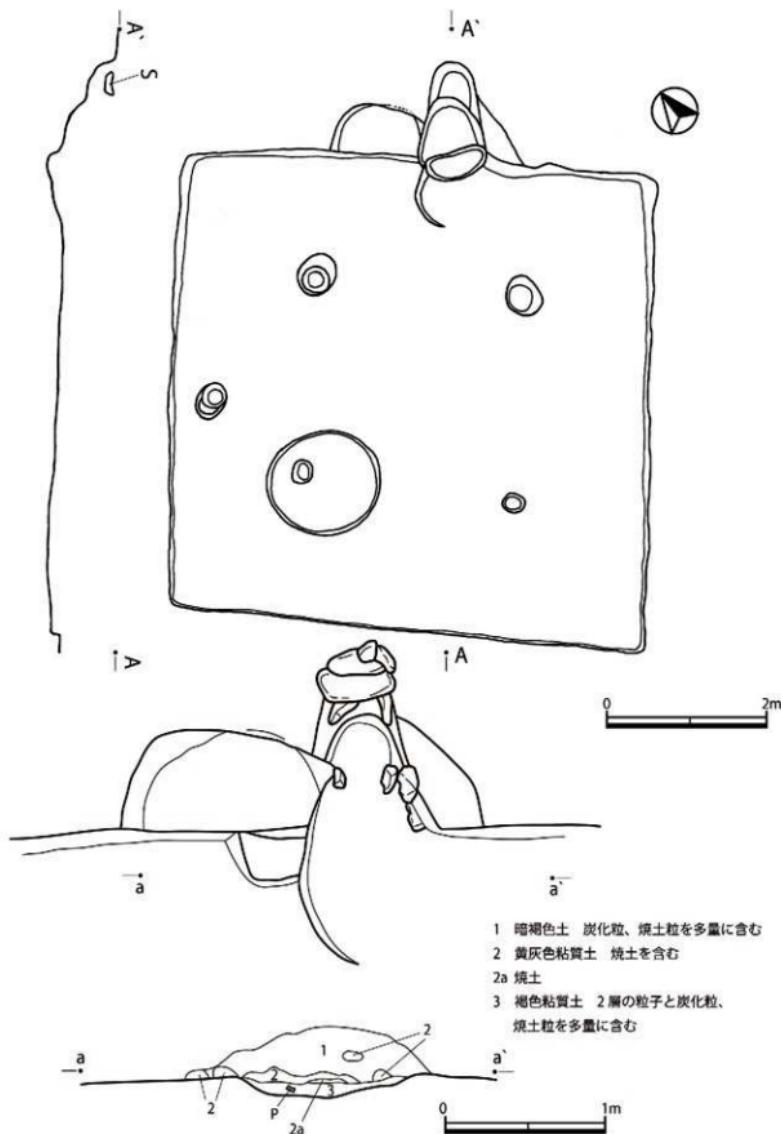


図4 1号住居

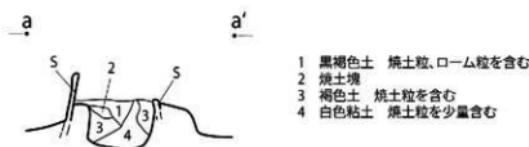
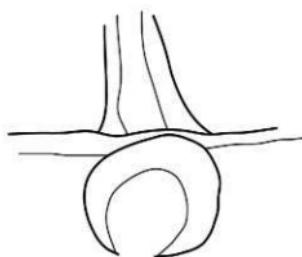
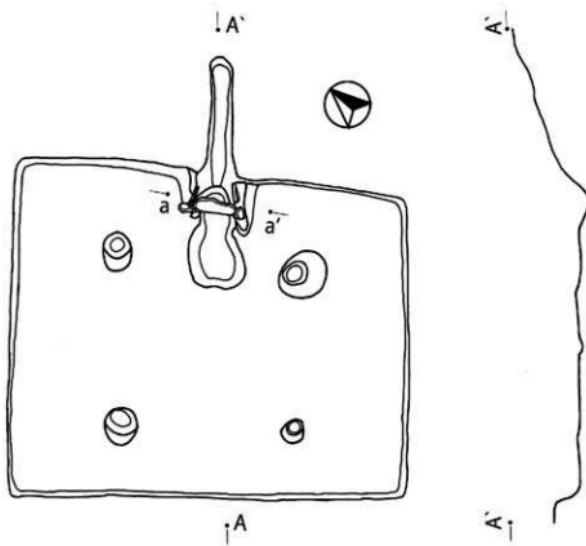


図5 2号住居

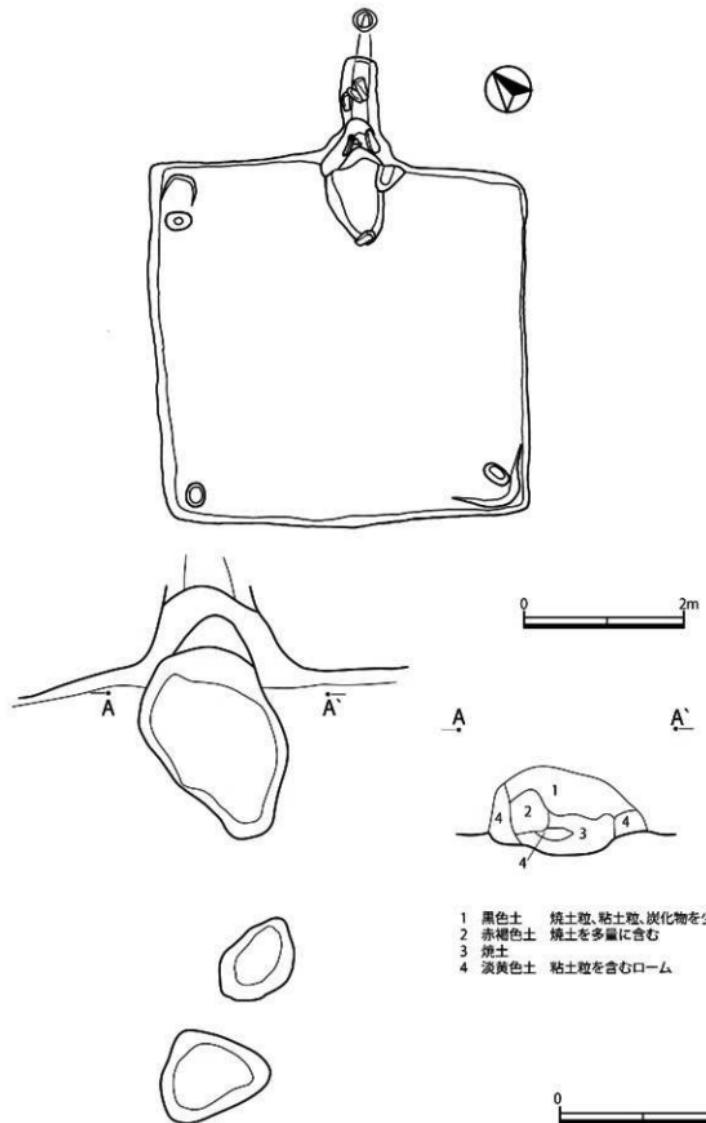


図6 3号住居

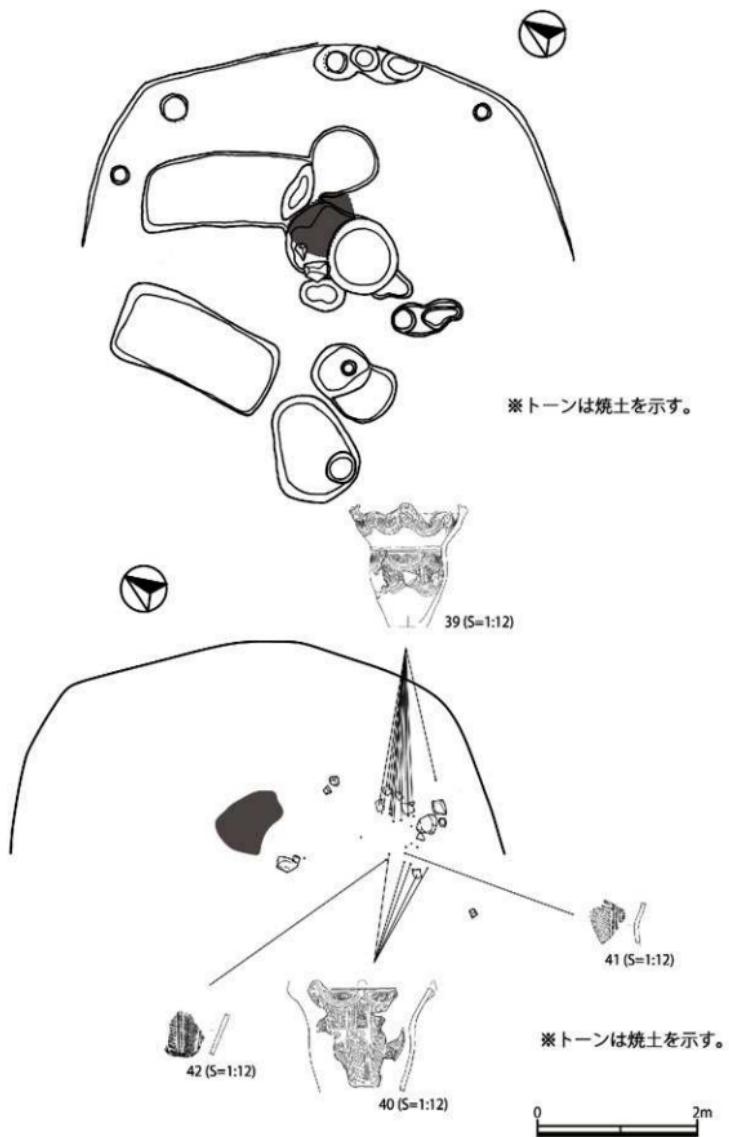


図7 4号住居

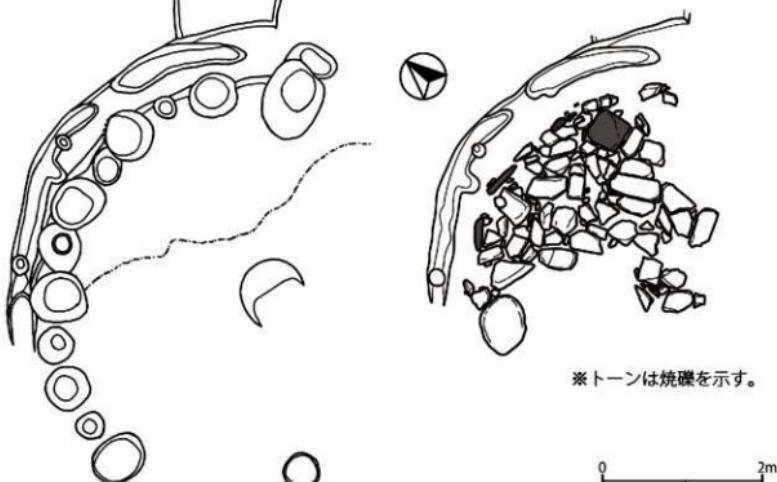
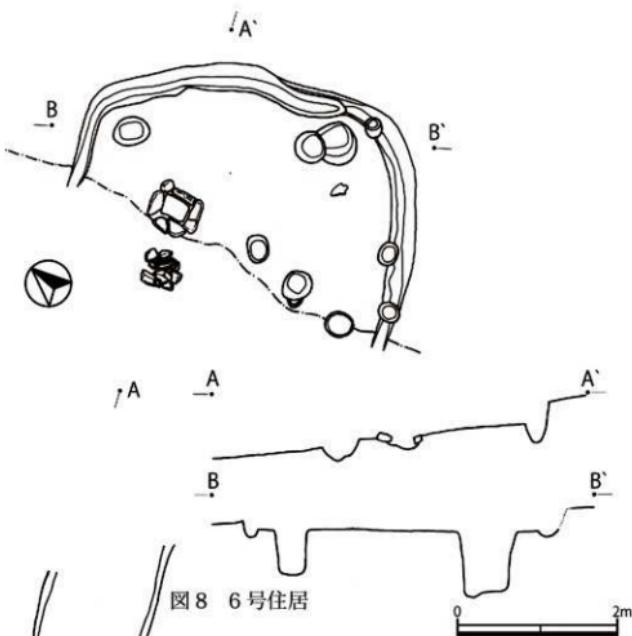


図9 7号住居

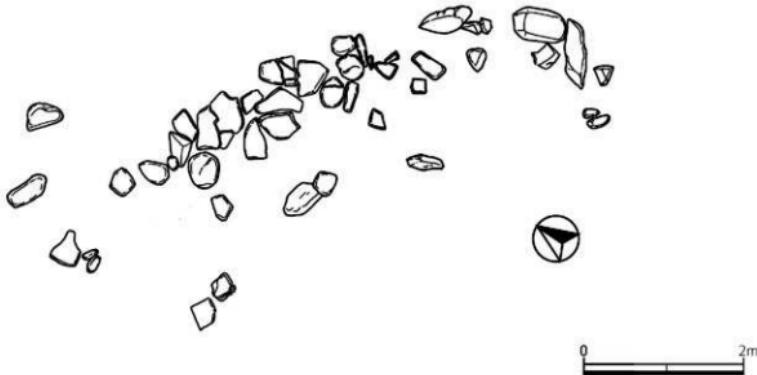
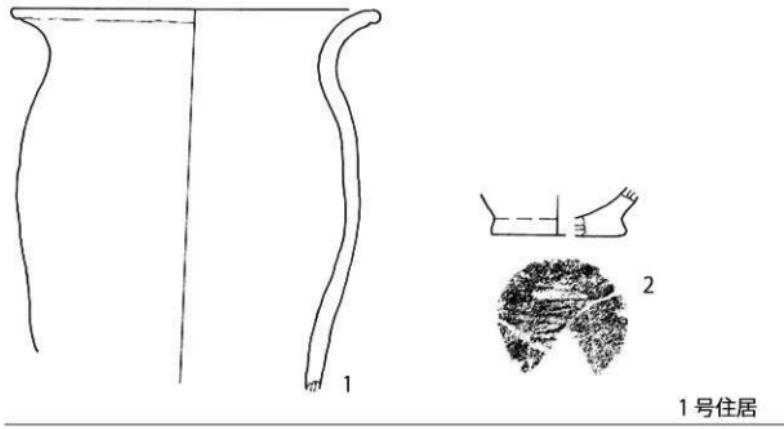
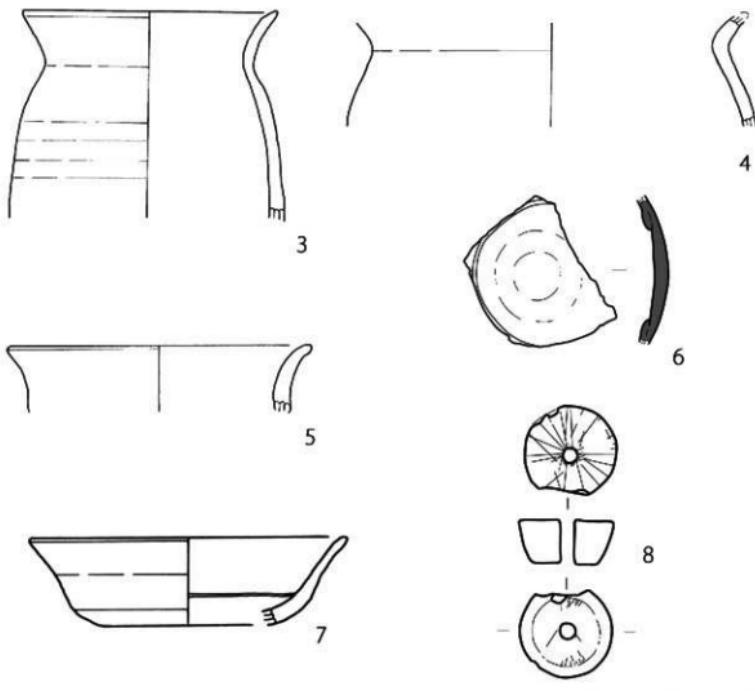
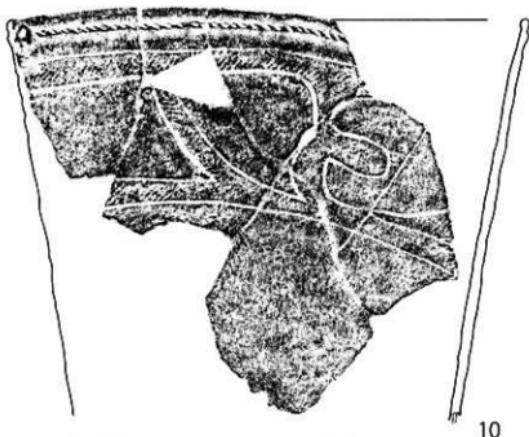
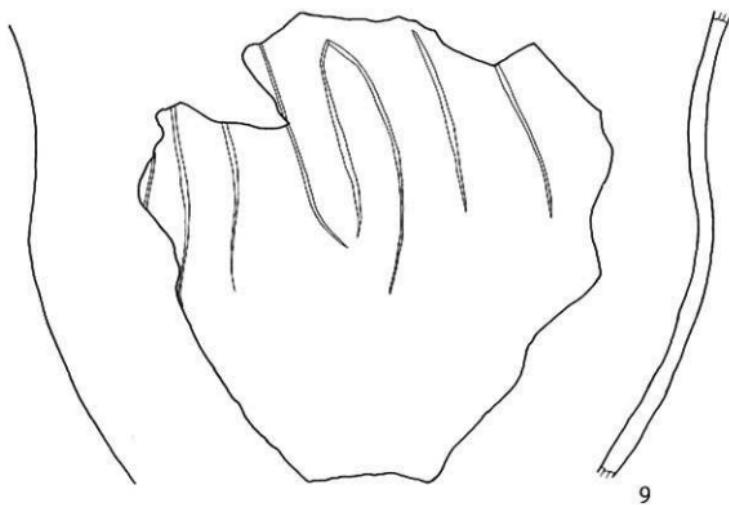


図 10 配石遺構



1号住居





0 0.5 1cm

図 12 出土遺物②

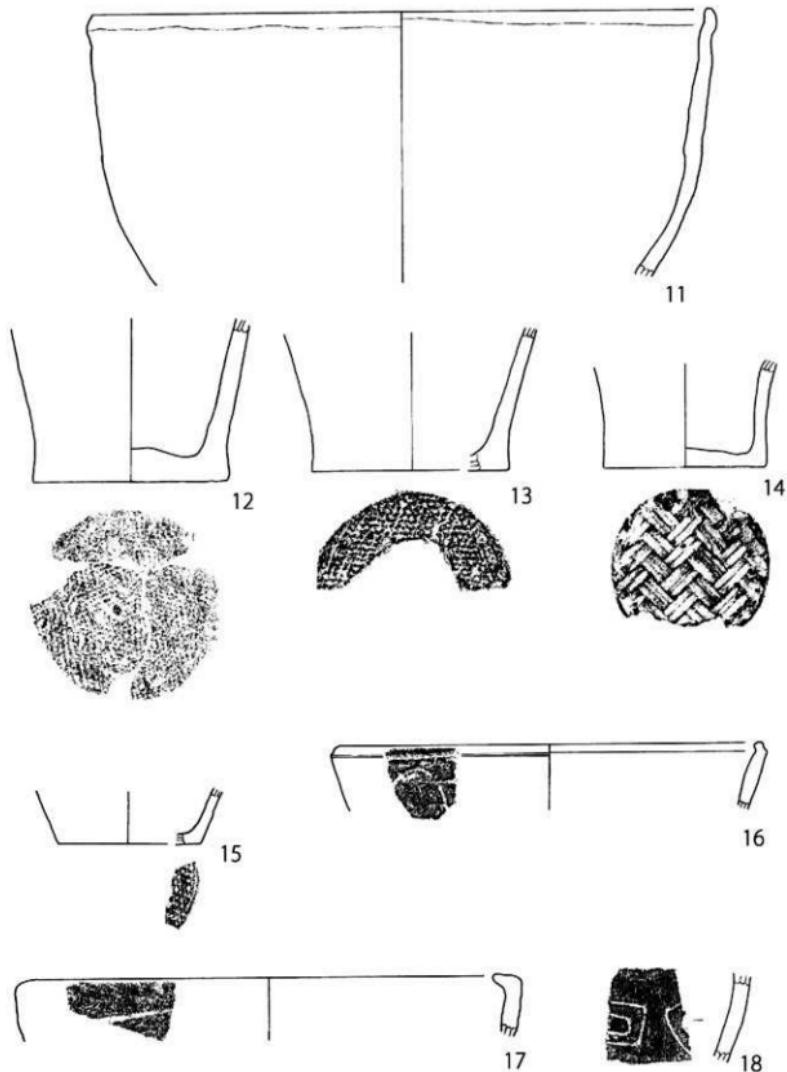


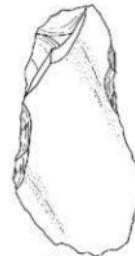
図 13 出土遺物③

- 17 -

0 10 20 cm



19



21



20



22

2号住居

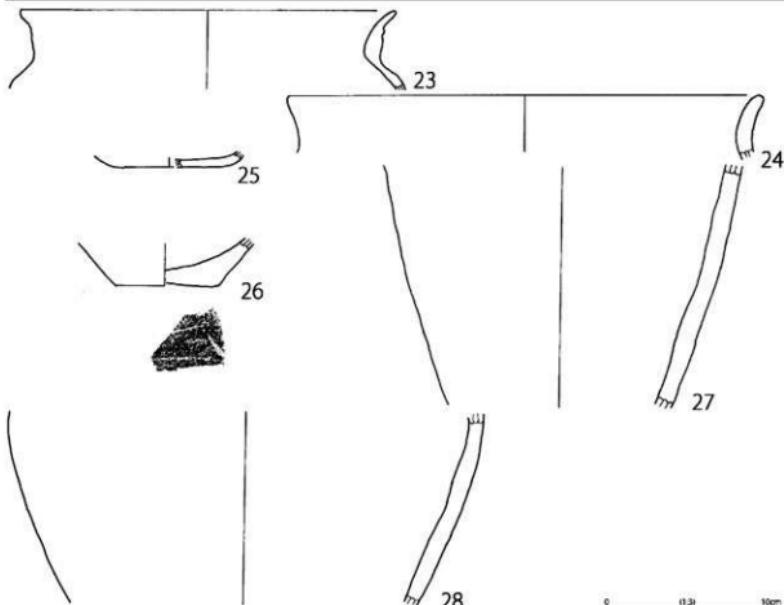


図 14 出土遺物④



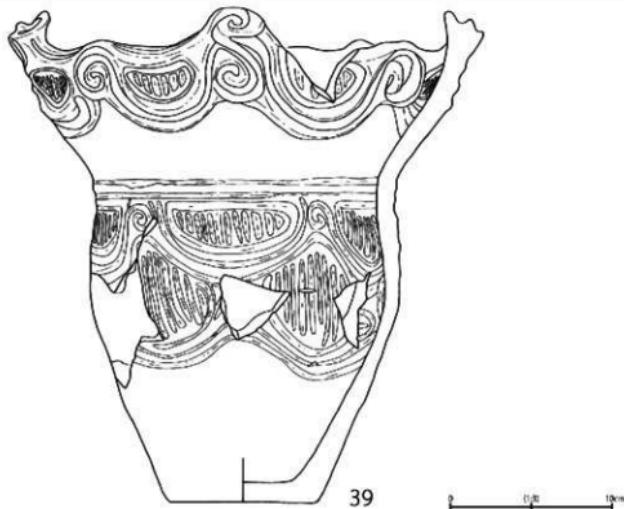
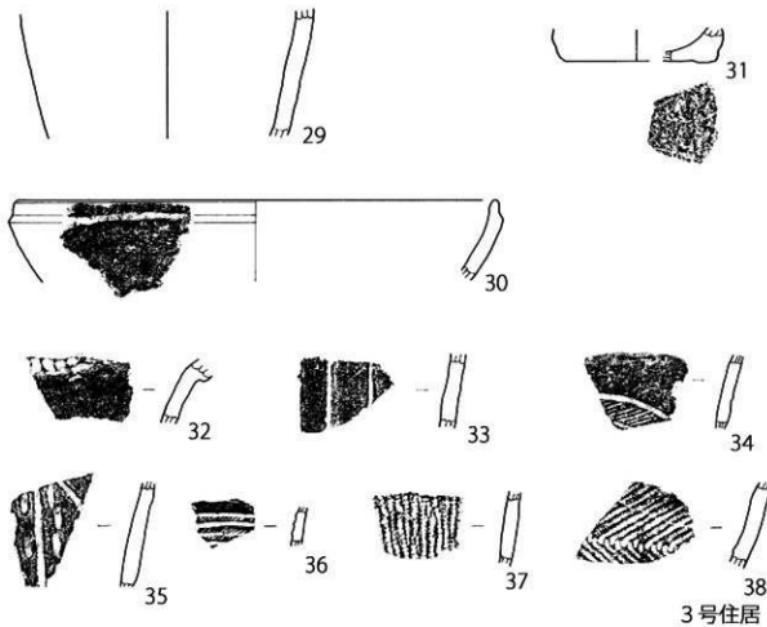
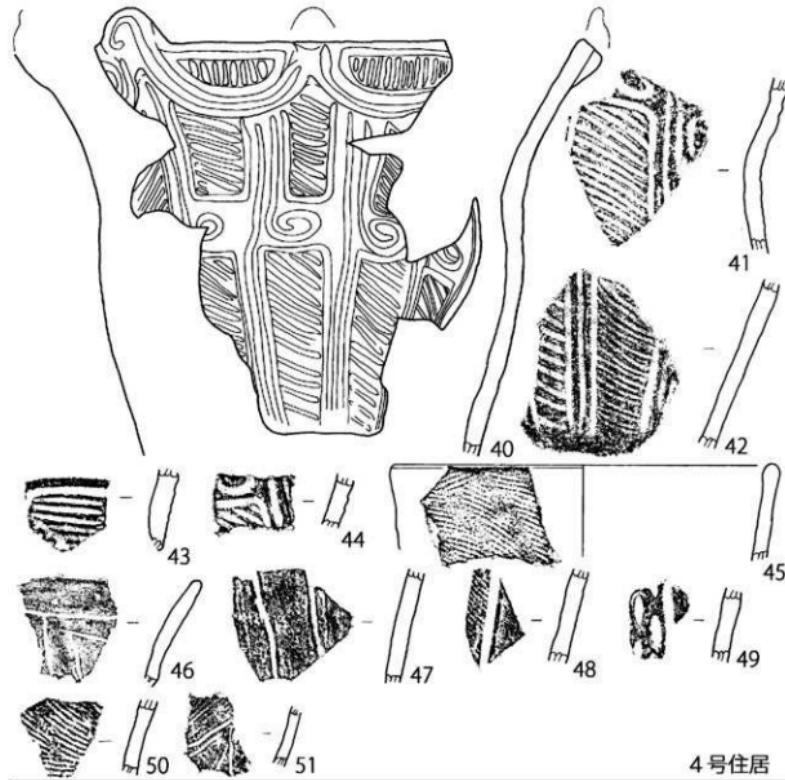


図 15 出土遺物⑤



4号住居

図 16 出土遺物⑥

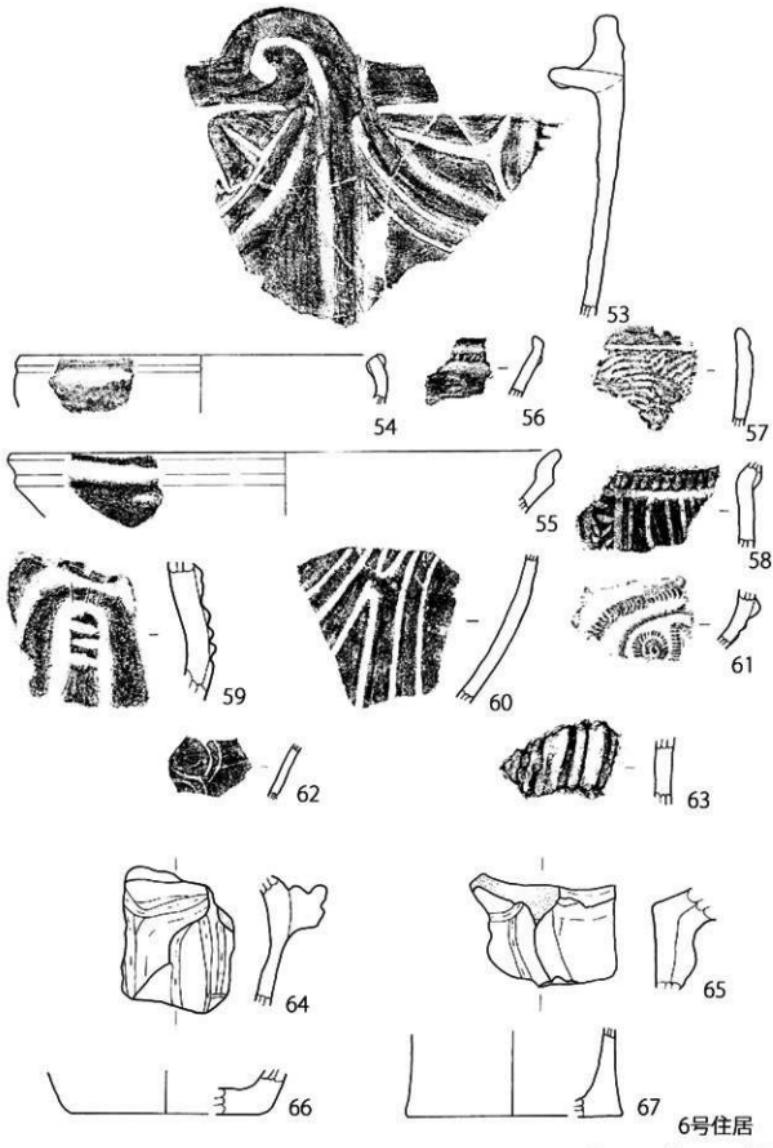


図 17 出土遺物⑦

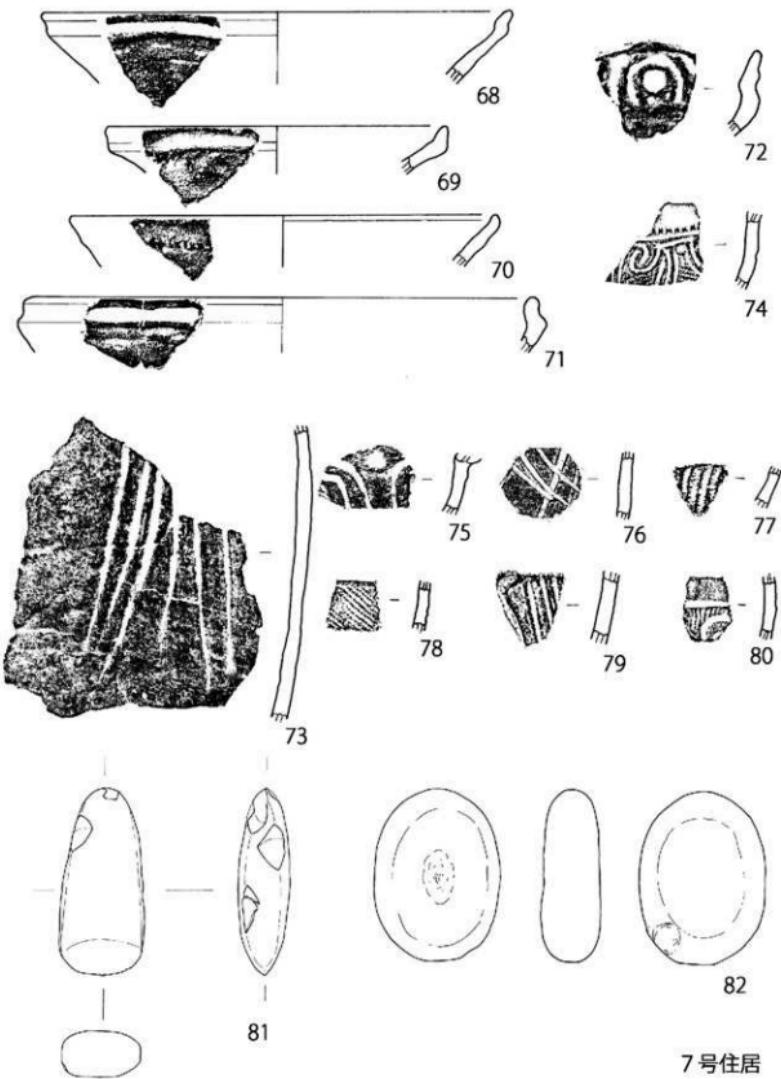


図 18 出土遺物⑧

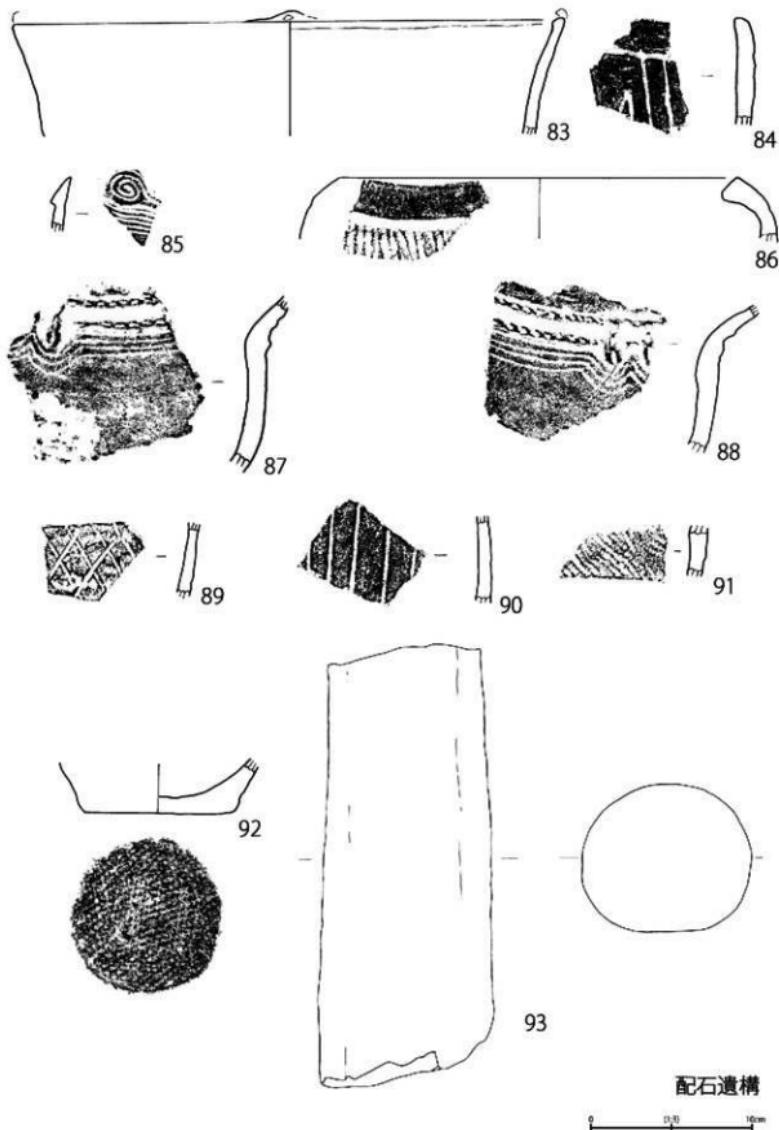
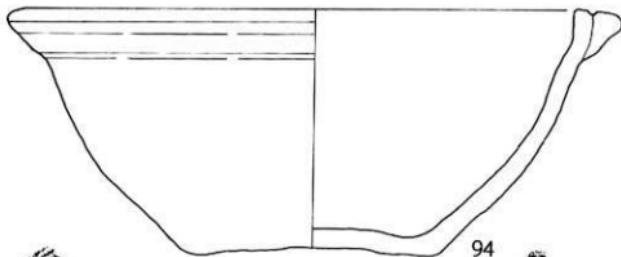


図 19 出土遺物⑨

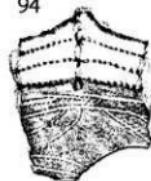
配石遺構



94



95



96
97
98



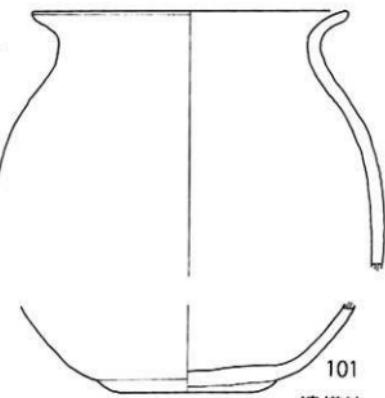
99



96



100



101

遺構外

0 10cm 20cm

表1 出土遺物観察表 繩文土器・石器

図版	No.	出土遺物	種別	器種	時期	口/底 (cm)	反転	儀成	残存率 (%)	胎土	色調	備考
12	9	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	有	良	20%	やや密	赤、金、砂糖	赤褐色 黒斑
12	10	2住跡土	土器	深鉢	縄文	32.0/— (cm)	有	良	35%	やや粗	白、金、黒、赤	褐色
13	11	2住跡土	土器	深鉢	縄文	37.8/— (cm)	有	良	30%	やや密	白、赤、金	埋褐色 外面一部黒変
13	12	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/12.1 (cm)	無	良	40%	密	白、金	埋褐色
13	13	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/12.1 (cm)	有	やや不良	20%	やや密	白、黒	埋褐色
13	14	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/10.0 (cm)	有	良	20%	やや密	白、金、黒	埋褐色
13	15	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/8.8 (cm)	有	良	小片	やや密	白、金、赤	褐色
13	16	2住跡土	土器	鉢	縄文	26.0/— (cm)	有	良	小片	やや密	白、黒、金	埋褐色
13	17	2住跡土	土器	深鉢	縄文	31.0/— (cm)	有	やや不良	小片	やや密	白、赤、金、黒	褐色
13	18	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	赤、白、金、黒	埋褐色	
14	19	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、黒、金	埋褐色	
14	20	2住跡土	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、金、赤	埋褐色	
14	21	2住跡土	石器	深鉢	縄文	長さ15.2cm、幅7.9cm、厚さ2.1cm、重さ320.1g						
14	22	2住跡土	石器	深鉢	縄文	長さ17.8cm、幅10.1cm、厚さ1.8cm、重さ461.2g						
15	30	3住	土器	深鉢	縄文	29.3/— (cm)	有	良	小片	やや粗	白、黒、金	褐色
15	32	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、黒、金、赤	赤褐色	
15	33	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、赤、黒、金	赤褐色	
15	34	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、黒、金	褐色	
15	35	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、黒、赤、金	埋褐色	
15	36	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	やや不良	小片	密	白、黒	赤褐色	
15	37	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、金、黒	埋褐色	
15	38	3住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、金、黒、赤	赤褐色	
15	39	4住	土器	深鉢	縄文	25.1/9.0 (cm)	有	良	70%	密	白、黒、金、赤	埋褐色 内面コゲ付着、高さ30.3cm
16	40	4住	土器	深鉢	縄文	35.6/— (cm)	有	良	35%	やや粗	白、金、黒	赤褐色 下底付近にコゲ付着
16	41	4住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	10%	やや粗	白、金、黒	埋褐色 42と同一か	
16	42	4住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	8%	やや粗	白、金、黒	埋褐色 41と同一か	
16	43	4住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、金、赤	褐色	
16	44	4住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、黒、金	埋褐色	
16	45	4住+1住	土器	深鉢	縄文	22.8/— (cm)	有	やや不良	8%	やや粗	白、金、黒	褐色
16	46	4住+1住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、赤、金	赤褐色	
16	47	4住+1住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	密	白、黒	赤褐色	
16	48	4住+1住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白	赤褐色	
16	49	4住+1住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、赤、金、黒	褐色	
16	50	4住+1住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、赤、金	埋褐色	
16	51	4住+1住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	密	白、赤	赤褐色	
16	52	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	有	良	20%	やや粗	白、金、赤	褐色
17	53	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	10%	やや密	白、金、黒	埋褐色	
17	54	6住	土器	鉢か	縄文	22.2/— (cm)	有	良	小片	やや密	白、赤、金、黒	埋褐色
17	55	6住	土器	深鉢	縄文	33.6/— (cm)	有	良	小片	やや粗	白、赤、金、黒	埋褐色
17	56	6住	土器	鉢か	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、黒、赤	褐色	
17	57	6住	土器	鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、赤、黒	褐色	
17	58	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、赤、金、黒	埋褐色	
17	59	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	6%	やや粗	白、黒、赤、金	埋褐色	
17	60	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	7%	やや密	白、赤、黒	埋褐色	
17	61	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや密	白、金	埋褐色	
17	62	6住	土器	深鉢か	縄文	—/— (cm)	良	小片	密	白、赤、金	褐色	
17	63	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	密	白、金、黒	赤褐色	
17	64	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、赤、黒	赤褐色	
17	65	6住	土器	深鉢	縄文	—/— (cm)	良	小片	やや粗	白、金、赤	埋褐色	
17	66	6住	土器	深鉢	縄文	—/11.8 (cm)	有	良	6%	やや密	白、金、赤	赤褐色
17	67	6住	土器	深鉢か	縄文	—/13.2 (cm)	有	良	6%	やや密	白、赤、黒	埋褐色
18	68	7住	土器	深鉢	縄文	28.8/— (cm)	有	良	小片	やや密	白、赤、金	赤褐色
18	69	7住	土器	深鉢	縄文	20.7/— (cm)	有	良	小片	やや粗	白、赤、金	埋褐色
18	70	7住	土器	深鉢	縄文	26.2/— (cm)	有	やや不良	小片	やや粗	白、赤、黒	埋褐色

表1 出土遺物観察表 繩文土器・石器

図版	No.	出土遺構	種別	器種	時期	口/底 (cm)	反転	焼成	残存率 (%)	胎土	色調	備考
18	71	7住	土器	深鉢	縄文	30.7/- (cm)	有	良	小片	やや密	白、赤、金	橙褐色
18	72	7住	土器	鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、赤、金	暗褐色
18	73	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	20%	やや密	白、赤、黒	暗褐色
18	74	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、赤	暗褐色
18	75	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや粗	白、黒、赤	暗褐色
18	76	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、黒	暗褐色
18	77	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、赤、黒	暗褐色
18	78	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや粗	白、黒、赤、金	茶褐色
18	79	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや粗	白、黒、赤、金	褐色
18	80	7住	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、黒、赤	褐色
18	81	7住	石器	■■■■■	縄文				長さ11.5cm、幅5.0cm、厚さ3.2cm、重さ250g			
18	82	7住	石器	■■■■■	縄文				長さ15.0cm、幅7.7cm、厚さ3.5cm、重さ476.3g			
19	83	配石	土器	深鉢	縄文	33.8/- (cm)		良	10%	やや密	金、白、黒	暗褐色
19	84	配石	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや粗	白、黒	暗褐色
19	85	配石	土器	鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、黒	赤褐色
19	86	配石	土器	鉢	縄文	24.4/- (cm)	有	良	小片	やや粗	白、黒、金、赤	暗褐色
19	87	配石	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		やや不良	小片	粗	白、黒、赤	88と同一個体か
19	88	配石	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		やや不良	小片	粗	白、黒、赤	87と同一個体か
19	89	配石	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、赤、金	赤褐色
19	90	配石	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや粗	白、赤、金、黒	茶褐色
19	91	配石	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		やや不良	小片	やや粗	白、黒、赤	暗褐色
19	92	配石	土器	深鉢	縄文	-/8.9 (cm)	有	良	10%	粗	白、黒、金	暗褐色
19	93	配石	石棒	縄文					長さ27.9cm(現存の長さ)、幅10.4cm、厚さ9.0cm			
20	94	遺構外	土器	鉢	縄文	34.0/14.4 (cm)	有	やや不良	70%	やや粗	白、黒、金、赤	茶褐色
20	95	遺構外	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	10%	やや粗	白、金、黒	赤褐色
20	96	遺構外	土器	鉢	縄文	-/- (cm)		良	10%	やや密	白、黒、赤、金	赤褐色
20	97	遺構外	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白	暗褐色
20	98	遺構外	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや粗	白、赤、黒、金	茶褐色
20	99	遺構外	土器	深鉢	縄文	-/- (cm)		良	小片	やや密	白、黒、赤、金	暗褐色

表2 出土遺物観察表 土師器・須恵器

記番No.	出土遺物	種別	種類	時期	口径/底(cm)	反転	施文・警形技法		底	成形	残存率(%)	胎土	色調	備考
							内面	外面						
11 1	1住	土師	要	奈良	22.7/- (cm)	無	ナ子			良	60%	やや泥白、赤、金、黒	棕褐色	内面に帯状の黒変
11 2	1住	土師	要	奈良	—/8.0 (cm)	有	ナ子		斜止系切刃	やや不良	約5%	やや泥白、黒、赤、金	棕褐色	
11 3	2住	土師	要	奈良	15.6/- (cm)	有	ナ子		口クロナ子			良	20%	やや泥白、直径1cm程度の小深
11 4	2住力マド	土師	要	奈良	—/— (cm)	有						良	小片	やや泥白、赤
11 5	2住力マド	土師	要	奈良	18.8/- (<cm)	有	ナ子			良	小片	白、黒、金	赤褐色	
11 6	2住	須惠	茎	奈良	—/— (cm)	有	口クロナ子			良	20%	泥白	灰白色	胎土付箋
11 7	2住	土師	坏	奈良	14.8/- (cm)	有	ナ子、繪文			良	30%	泥白	白	棕褐色
11 8	2住	石器	筋模倣	奈良	—/— (cm)	有	擦痕あり					長径4.2cm 短径3.7cm 厚さ5.9mm		
14 23	3住	土師	要	奈良	23.0/- (cm)	有	ナ子			良	小片	やや泥白、黒、金、白	茶褐色	
14 24	3住	土師	要	奈良	29.0/- (cm)	有	ナ子			良	小片	粗、白、赤	棕褐色	
14 25	3住	土師	土師坏	奈良	—/6.6 (cm)	有	ナ子		口クロナ子、繪文	ヘラケアリ	10%	泥白	白	棕褐色
14 26	3住	土師	要	奈良	—/6.4 (cm)	有	ナ子		木製板	やや不良	6%	やや泥白、黒、金、赤	棕褐色	
— 14 27	3住	土師	要	奈良	—/— (cm)	有	ナ子			良	15%	やや泥白、赤、黒、赤	棕褐色	
14 28	3住	土師	要	奈良	—/— (cm)	有	ナ子			良	20%	粗	白、金、黒、赤	棕褐色
15 29	3住	土師	要	奈良	—/— (cm)	有	ナ子			やや不良	10%	やや泥白、白、赤、金	茶褐色	
15 31	3住	土師	要	奈良	—/9.2 (cm)	有	ナ子、繪文		木製板	良	小片	粗	白、黒、金	茶褐色
20 100	通樽外	土師	坏	奈良	12.2/6.8 (cm)	有	ナ子		木製板	不良	40%	やや泥白、黒、赤	棕褐色	
20 [01]	通樽外	土師	要	奈良	19.4/— (cm)					不良	40%	泥白	棕褐色	

写 真 図 版





1号住居 西から



1号住居 カマド



2号住居 南西から



1号住居 カマド完掘



2号住居 カマド



3号住居 南から



3号住居 カマド



3号住居 カマド完掘



4号住居 南西から



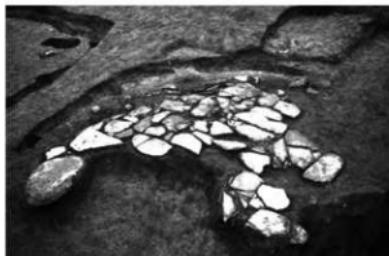
4号住居 遺物出土状況



6号住居 南西から



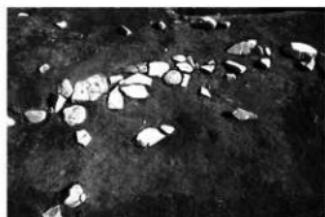
6号住居 南から



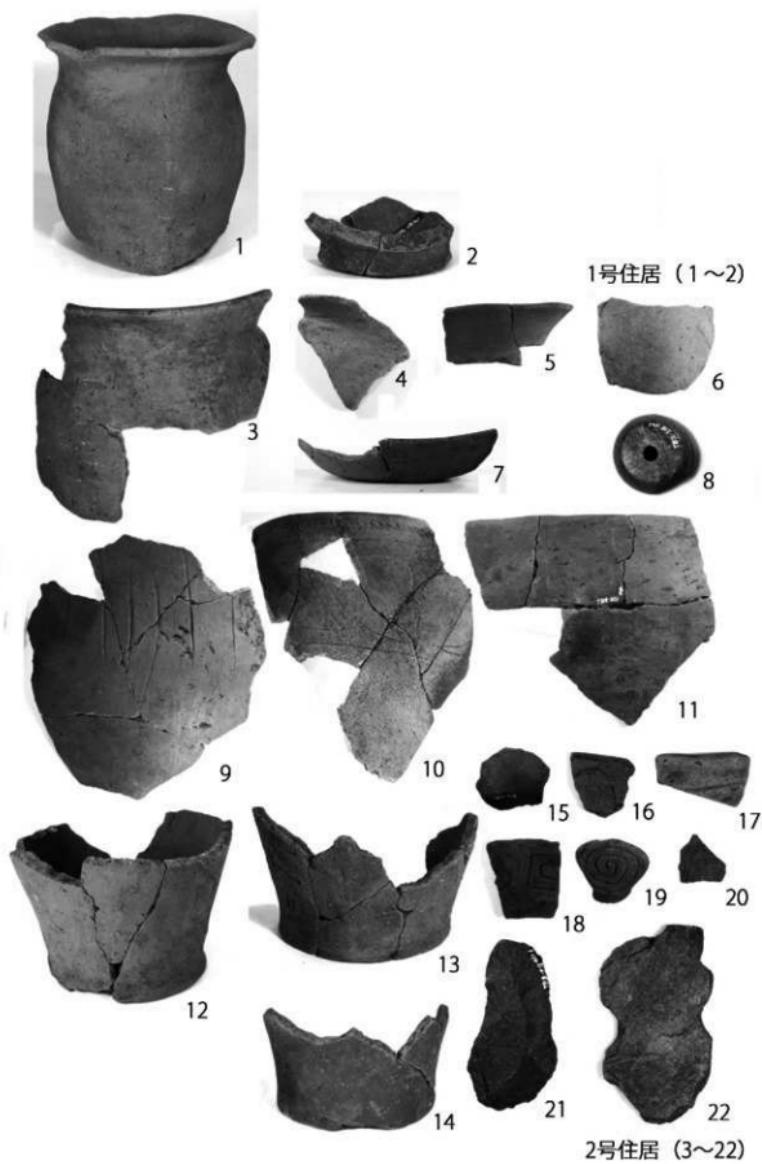
7号住居 南から

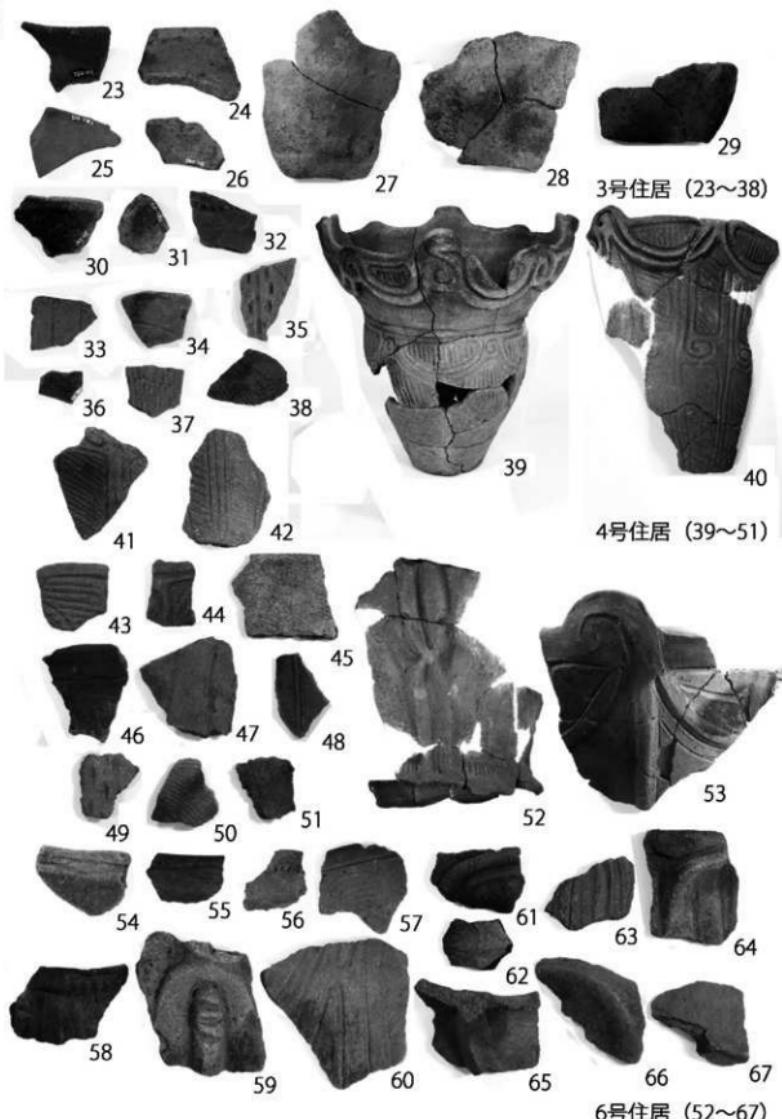


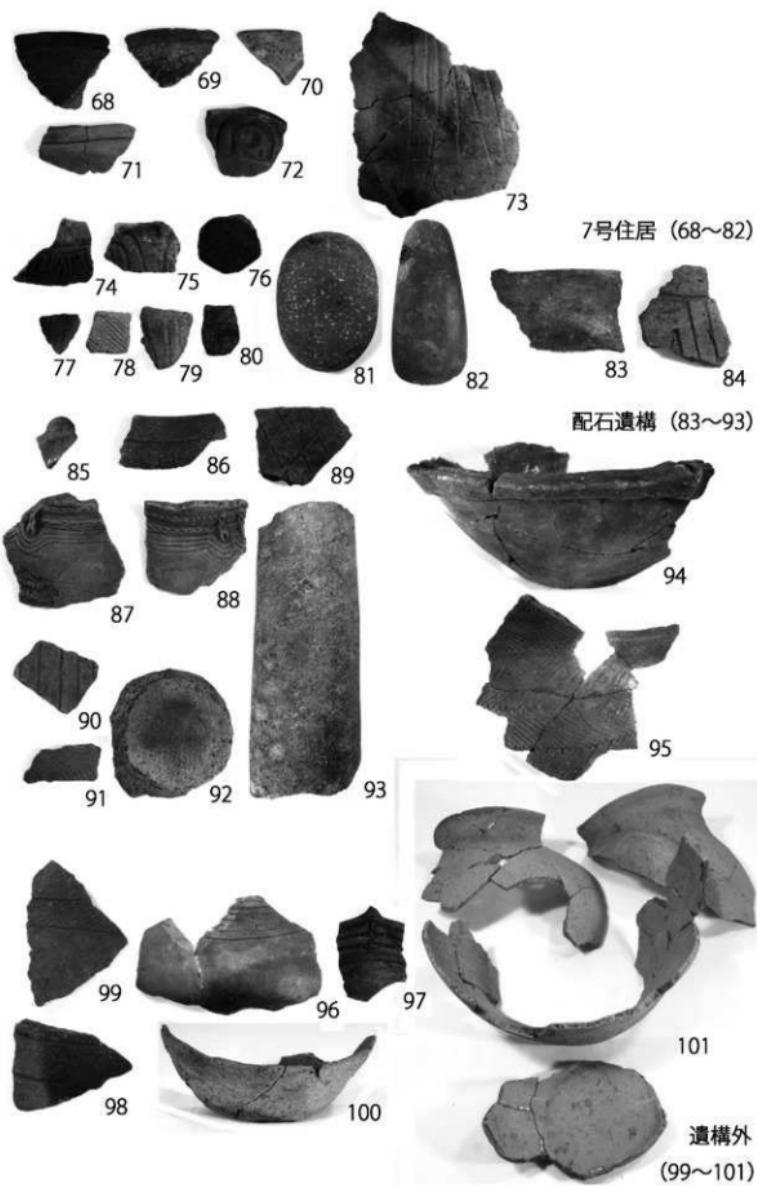
7号住居 南東から



配石遺構 南西から







ふりがな	てらばらいせき				
書名	寺原1遺跡				
副書名	宅地造成に伴う発掘調査報告書				
シリーズ名	大月市埋蔵文化財報告書				
編著者名	杉本正文・福垣自由				
編集機関	大月市教育委員会・大月市遺跡調査会				
所在地	〒401-0013 山梨県大月市大月二丁目6番20号				
発行年月日	西暦 2019年3月31日				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 古町村 遺跡	発掘期間	発掘対象面積	
てらばらいせき 寺原1遺跡	やまなしけんおおつきしななほまちしらわだ 山梨県大月市七保町下和田1738 ～1740番	206	19921207～ 19930131	1,666m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺原1遺跡	集落	縄文・奈良	堅穴住居（縄文・奈良時代）、配石遺構（縄文時代）	縄文土器、土師器、打製石斧、磨製石斧、石棒ほか	
要約	縄文時代の遺構は、井戸戸2式の住居1軒、曾利畠式期の住居1軒、塙之内2式期の住居が1軒、塙之内2式期の配石遺構1基が確認された。奈良時代の遺構は7世紀末～8世紀前半の時期の住居が3軒確認された。合計6軒の住居と配石遺構が1基確認されたことにより、寺原1遺跡が、縄文時代・奈良時代の集落遺跡であるということが確認された。				

大月市埋蔵文化財調査報告書

寺原1遺跡

宅地造成に伴う発掘調査報告書

発行日 2019（平成31）年3月31日

発行 大月市教育委員会・大月市遺跡調査会

〒401-8601 山梨県大月市大月2-6-20

印刷所 株式会社 誠実堂